



巧みな話術で会場を笑いで包んだ笑福亭学光さん

**笑いでコミュニケーションづくり**

■男と女のフォーラム

相良総合センターい〜らで2月27日、「男と女のフォーラム」が開催され、落語家の笑福亭学光さんが「女と男〜笑いでコミュニケーションづくり」と題して講演しました。

講演では、学光さん自身の経験をユーモアたっぷりに紹介したほか、落語や腹話術を披露。また、自分の言葉が知らないうちに相手を傷つけることがあること、人と会うことや笑うことなどは認知症予防にもなることなどを話し、参加者は楽しみながらコミュニケーションの大切さを学びました。

**市内のスポットを「び少女」と巡ろう**

■島田商業高校生徒が恋愛ノベルゲームアプリを作成

県立島田商業高等学校情報ビジネス科3年生の中西健太さん、山内柔磨さん、森大樹さんが、謎の「び少女」と一緒に市内のさまざまなスポットをストーリーに沿って巡る恋愛ノベルゲームアプリ『び少女』を授業の一環で作成し、2月24日、杉本市長に完成を報告しました。

3人は、「牧之原市を知らない人にも気軽にプレイしてもらえよう工夫した」「牧之原市に少しでも興味を持ってもらい、実際に足を運んでもらいたい」と話しました。



杉本市長にゲームのプレイ方法を説明する生徒

**鮮やかなピンク色の桜が川沿いを彩る**

■坂口谷川沿いの河津桜が見頃

坂口谷川（坂部区）沿いの約60本の河津桜が、2月末に見頃を迎えました。

河津桜は、2月中旬から下旬にかけて開花する「早咲き桜」の一種で、開花期間が約1カ月と長く、通常の桜として知られるソメイヨシノよりも濃いピンク色が特徴です。強い寒波の影響で例年より開花が1週間ほど遅れましたが、見頃を迎えた川沿いの道には多くの人が訪れ、鮮やかな桜の花を堪能しました。また、3月6日まで夜間ライトアップも実施されました。



満開の河津桜を堪能する人々



キャッシュレス決済について解説する藤田さん（左奥）

**キャッシュレス決済の基本を学ぶ**

■いこっと 大人の学び講座

ミルキーウェイクエア（波津区）で2月26日、「いこっと 大人の学び講座『キャッシュレス決済の基本と安全な使い方』」が開催され、市内外から20人が参加しました。

講座では、講師の藤田すづ枝さん（静岡県金融広報アドバイザー）が、現金を使わないキャッシュレス決済の仕組みのほか、安全な使い方や注意点、メリット・デメリットなどを丁寧に解説しました。

参加者からは「初心者でもわかりやすかった」「今後に生かしたい」などの声が聞かれました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

ズームイン！  
カシャ！！



10万人達成を祝う垂れ幕の前で記念撮影する漆畑さん一家ら

**9カ月で年間目標の2倍の来館者**

■図書交流館いこっと 来館者数10万人達成

前年4月17日に開館した図書交流館いこっと（波津区）は2月5日、来館者数10万人を達成し、記念セレモニーを開催しました。

10万人目の来館者となったのは漆畑美穂さん（川崎区）で、夫の進さん、娘の千穂さんとともに、絵本『11びきのねこ』やぬいぐるみ、図書カードなどの記念品を受け取りました。

美穂さんは「いこっとは子どもの絵本がいっぱいあってよく利用している。急で驚いたが、とてもうれしい」と顔をほころばせました。

杉本市長は「当初の目標である年間5万人を大きく上回ったのはすごいこと。これから中身をどんどん充実させるので、さらに多くの皆さんに利用していただきたい」と話しました。

**大河ドラマ誘致活動が本格的に始動**

■「田沼意次侯大河ドラマ誘致推進協議会」設立

2月21日、田沼家ゆかりの平田寺（大江区）で「田沼意次侯大河ドラマ誘致推進協議会」（今野朝子会長）の設立会議が開催されました。

同協議会は、田沼意次侯の功績をあらためて顕彰し、全国へ発信するとともに、市民の誇りの醸成や地域の活性化につなげるため、田沼意次侯を題材とした大河ドラマ放映の実現を目指します。

当日は、今後の誘致活動の基本方針や基本計画などが話し合われ、3月から署名活動を開始することなどが承認されました。



平田寺本堂前で氣勢を上げる協議会メンバーら



応急給水用仮設スタンドの前で感謝状を手にする大石理事長（左）ら

**緊急時のライフライン確保のために**

■牧之原市管工事協同組合から応急給水用仮設スタンド寄贈

2月18日、牧之原市管工事協同組合（大石智弘理事長）から本市に対し、応急給水用仮設スタンド（給水口3カ所）5台が寄贈されたため、お披露目と市からの感謝状贈呈を行いました。

これは、断水時の応急的な給水活動で使用するため、市保有の1トン給水タンクに接続し、給水用ポリ袋などに補給することができます。災害が発生した時などには、同組合と市が協力し、給水拠点でのスピーディーな給水活動に大きな役割を果たします。